

人権・同和教育シリーズ

170

第15回菊池市人権・同和教育研究大会報告 地域人権教育指導員 末永知恵美

問い合わせ先 人権啓発課
0968(25)7209

7月20日に菊池市文化会館において、「菊池市人権・同和教育研究大会」が開催されました。午前の全体会と午後の分科会に約千人の参加がありました。

ユーモアたっぷりの心に響く「人権啓発講演会」

講師は、関西外国語大学教授・人権教育思想研究所長の明石一朗さんです。

「『心の窓を少し開くことから』人々は幸せになりたいと願って生きている。それが人権」と題して講演をしていただきました。簡単に紹介します。

人権とは、幸せを追求することであり、何人も安全・安心・自由であること。人権を否定するものが暴力・貧困・無視、これが差別です。これに対して好感・共感・親近感をもって生活することが、相手の人権を大事にすることになります。

学校は、子どもの笑顔を増やし未来を保障する場所であり、家庭は生活習慣を確立させる場所です。一方、地域は、あなたのことをいつも気にかけている。

見守っているというメッセージを送り続ける場所です。

現在、児童虐待やいじめなど子どもたちの命に関わる重大な、悲しい事件が相次いでいます。



講師・明石一朗さん

これまで以上に、家庭・学校・地域が連携して、幼い子どもたちにも人権を守っていかねければなりません。

素敵な出会いとふれあいを豊かに作りだすこと、暮らして通じて人権を自分自身に引き寄せること。そして、正しく学ぶ機会をもつことが大事です。わかることはかわることだから。

関西弁で、信念そのものであるユーモアに溢れ、会場を笑顔に包み込んだ講演の最後に「ユーモアが人権の心を育む」と締めくくられました。

テーマごとの発表や意見交換が行われた分科会

それぞれの分科会テーマに沿って、報告者からの詳しい報告があり、その後は参加者全体で意見交換などが活発に行われました。

さまざまな業種・立場の市民が一堂に会しての研究会でした。菊池市の皆さんの人権意識が高まっているのは、このような研究会が定期的に開催され、多くの参加者がいることが理由の一つです。

「人権啓発講演会」とともに、人権感覚を磨く場として、今後「菊池市人権・同和教育研究大会」への参加をお願いします。部活差別をはじめあらゆる差別のない、厚い人情がふれる菊池市をみんなでつくりましょう。



さまざまな意見交換が行われました



韓国発見シリーズ⑦ 金にちは金です

韓国人の代表的な庶民料理、チャジャン麺

外国に長く住む日本人が食べたくなるソウルフードがラーメンなら、それに比例するのは韓国ではチャジャン麺だろう。

チャジャン麺はもとも中国山東半島地域の家庭食を韓国人の口に合うようにアレンジした麺料理だ。たまねぎ、ジャガイモ、生姜などいろいろな野菜と肉を食用油で炒め、中国の味噌(春醬)で味付けした真っ黒いソースを麺にたっぷりかけて食べる韓国式中華料理である。

資料によると、1890年代に中国山東地方から渡ってきた埠頭労働者(苦力・荷役人夫)が仁川港埠頭の周辺で簡単に食事を済ませられるよう中国の味噌(春醬)と麺を混ぜた料理がチャジャン麺の始まりだという。その後「共和春」という店が1912年に開業。この店が「元祖チャジャン麺の家」として知られ、今も仁川のチャイナタウンには共和春の建物が「チャジャン麺博物館」として復元されている。

朝鮮戦争直後の1950年代半ばには、春醬にキャラメルを入れ、甘めの味付けになって



国際観光マネージャー 金相廷

いった。この頃からチャジャン麺は中国のものとは異なり韓国風にならわっていく。1960〜1970年代には韓国政府が当時の食料事情を改善するため行った粉食奨励運動や産業化時代と重なり、チャジャン麺は全盛期を迎えた。

チャジャン麺は今でも200〜500円位と比較的安価で提供される。そして配達文化が色濃く残る韓国ではどこへでも配達してくれる。それは川辺や海辺など住所がない場所でもお店の人はバイクで配達する。それで家族や友人と野外でも電話一本で熱々たっぷりのチャジャン麺をいただける。

韓国の大らかさと安価でお腹いっぱいになる気楽さ。また、チャジャン麺を食べるときは口周りを真っ黒にしながらかき口を開けて食べなければいけない。このユーモラスな雰囲気は多くの韓国人に愛されてきた要因ではないかと思う。

ぜひ、みんなで大きく口を開けて、口を真っ黒にしながらかき、韓国の雰囲気味わってほしい。